

関越中央病院だより

群馬県医師会
関越中央病院 外科部長

矢野佳子

灼熱の猛暑が嘘のように10月に入ってからすっかり寒くなりました。ちなみに今年は30度を超える真夏日は、前橋95日、高崎95日と群馬県内各地で約100日もあったそうです。私は大阪大学出身で、昨年4月に関西の病院より関越中央病院に赴任してきましたが、群馬に来た当時は、冬の寒さと夏の暑さが身に沁みました。しかしその分、寒暖の差が大きいため、秋の紅葉の色鮮やかさは格別な気がいたします。当院は国道6号と関越自動車道が交わるちょうど交差点に立地している100床弱の病院です。私は、消化器外科が専門で、手術や胃・大腸内視鏡検査を中心に行っています。手術はアッペ、ヘルニア、胆石の他、消化器癌の手術を中心に、開腹手術の他、適応に応じて腹腔鏡手術を積極的に行っています。当院の特徴として、入院患者さんに高齢者の割合が非常に多いことが挙げられます。現在入院中の患者さんは43歳～103歳で平均81.5歳でした。また私の受け持ち患者さんの平均も79.3歳で、このため術後の管理は苦勞することが多く、手術をしても在宅復帰にリハビリが必要となり、退院調整に時間を要するのが現状です。当院ではそういった高齢化医療に対応すべく、2022年10月に地域包括ケア病棟を併設しました。手術等の急性期治療が終了した患者さんは、急性期病棟から包括

ケア病棟に転棟していただき、リハビリ中心の療養を行っていただく事が可能となりました。急性期病棟と地域包括ケア病棟の両方を抱え、医師、看護師、パラメディカル、その他スタッフはみんな多忙を極めていますが、みんな熱量とプライドをもって働いています。時々、他施設に専門的な医療をお願いし、ご紹介させていただく事があります。しかしながら、時々返信がいただけなかったりした場合、紹介後の患者さんが、どのような経過をたどられているのかとても気になることがあります。このため私は、開業医の先生や他施設よりご紹介いただいた際、忙しくても必ず治療経過を返信するように心がけています。時々返信を忘れていたりすると、地域連携室のスタッフが「先生、返信がまだですよ」と教えてくれる（尻をたたいてくれる）ので助かっています。また、当院での急性期治療が終了した際は、開業医の先生のところに戻っていただき、何かあればまたご紹介いただくというキャッチボールのような地域連携を目標としています。5年後には病院の建て替えが予定されているとのことですが、今後ますます地域の先生方と連携を行い、地域医療の一端を担っていく所存でございますので、どうぞよろしく願いいたします。